

第2章 計画の基本的な方向

- 1 第3次計画（令和3年度から6年度）の評価
- 2 計画の基本理念・柱と目標

1 第3次計画（令和3年度から6年度）の評価

本計画では、各指標の達成状況について評価（改善率）の基準を設け、6区分で評価しています。

○評価基準と第3次計画（令和3年度から6年度）の評価

区分	評価（改善率）の基準	指標数
A （目標達成）	目標達成、または改善率 90%以上	7
B （改善）	基準値より改善 （改善率 50%以上 90%未満）	3
C （やや改善）	基準値より改善 （改善率 10%以上 50%未満）	4
D （変わらない）	基準値より変化がみられない （改善率-10%以上 10%未満）	3
E （悪化）	基準値より悪化 （改善率-10%未満）	10
計	—	27
改善の割合 （A+B+C/計）	—	51.2%
—（未判定）	数値が未把握なものや把握困難なものなど、 はんていがないもの	1

目標設定時の値（ベースライン値）と直近の値を比較し、どの程度改善したのかを判断する手法により実施しました。

（1）生涯にわたる健康づくり

○食育に関心を持っている県民の割合の増加（20歳以上）

食育に関心を持っている県民の割合は横ばいで推移しており、目標は達成しませんでした。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	（参考） 全国値	出典
食育に関心を持っている 県民の割合の増加 （20歳以上）	R1 56.6%	R5 57.8%	R6 90%	D	R5 78.9%	【県】県民健康・栄養実態調査 【国】食育に関する意識調査

○朝食を欠食する県民の割合の減少

本県の小学6年生においては、欠食する児童の割合が増加しました。また、20～30歳代では欠食する人の割合が減少し、目標を達成しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考)全国値	出典
朝食を欠食する県民の割合(小学6年生)	R1 3.3%	R5 4.3%	R6 0%	E	R5 6.1%	全国学力・学習状況調査
朝食を欠食する県民の割合(15～19歳)	R1 2.1%	R5 6.9%	R6 0%	—※	R1 12.9%	【県】県民健康・栄養実態調査 【国】国民健康・栄養調査
朝食を欠食する県民の割合(20～30歳代)	R1 19.8%	R5 15.2%	R6 15%	A	R1 23.9%	

※調査者数が少ないため評価困難

○栄養バランスに配慮した食生活を実践する県民の割合

ふだんの食事で主食・主菜・副菜をそろえることを意識している人の割合(20歳以上)はほぼ横ばいとなりました。主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合は、20歳以上で全国値を上回っているものの減少、20～30歳代で全国値を上回っており、やや改善となりました。

ふだんの食事における減塩の取組状況の割合はやや改善、1日当たりの食塩摂取量は変化がありませんでした。また、野菜摂取量は全国値を上回っているものの減少、果物摂取量100g未満の人の割合はやや改善しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考)全国値	出典
ふだんの食事で主食・主菜・副菜をそろえることを意識している人の割合(20歳以上)	R2 75.4%	R5 74.8%	R6 増加させる	D	—	県民健康・栄養実態調査
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合(20歳以上)	H30 56.8%	R5 49.2%	R6 80%	E	R5 38.2%	【県】県民健康・栄養実態調査
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人の割合(20～30歳代)	H30 40.6%	R5 42.6%	R6 55%	C	R5 28.3%	【国】食育に関する意識調査
ふだんの食事における減塩の取組状況(20歳以上)	R1 63.8%	R5 68.3%	R6 80%	C	—	【県】県民健康・栄養実態調査 【国】国民健康・栄養調査
食塩摂取量の減少(20歳以上)	R1 10.3g	R5 10.2g	R6 8g未満	D	R5 9.8g	
野菜摂取量の増加(20歳以上)	R1 325.2g	R5 290.9g	R6 350g	E	R5 256.0g	
果物摂取量100g未満の人の割合の減少(20歳以上)	R1 61.5%	R5 56.5%	R6 39%	C	R1 61.6%	

○適正体重を維持している人の増加

肥満傾向にある小学5年生の割合は、男女とも全国値を下回っており、男子では増加、女子ではやや減少しました。20～30 歳代女性のやせの人の割合は減少し、目標を達成しました。

また、20～60 歳代男性の肥満者の割合は増加、40～60 歳代女性の肥満者の割合は減少しました。低栄養傾向の高齢者の割合は増加しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考)全国値	出典
肥満傾向にあるこどもの割合の増加 (小学5年生男子)	R1 11.3%	R4 14.8%	R6 7.0%	E	R4 15.1%	学校保健統計調査
肥満傾向にあるこどもの割合の増加 (小学5年生女子)	R1 10.4%	R4 9.2%	R6 7.0%	C	R4 9.7%	
20～30 歳代女性やせの人の割合の減少	R1 22.5%	R5 15.9%	R6 20%	A	R5 20.2%	【県】県民健康・栄養実態調査 【国】国民健康・栄養調査
20～60 歳代男性肥満者の割合の減少	R1 31.1%	R5 33.5%	R6 24%	E	R5 32.8%	
40～60 歳代女性肥満者の割合の減少	R1 25.2%	R5 19.2%	R6 18%	B	R5 23.2%	
低栄養傾向（BMI20 以下）の高齢者（65 歳以上）の割合	R1 16.8%	R5 19.2%	R6 18%	E	R5 17.6%	

○むし歯や 8020 達成者、デンタルケア、よく噛むことの改善

むし歯のない3歳児及び12歳児の割合は全国値を上回っており、増加しました。8020 達成者の割合は増加し、目標を達成しました。

また、定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合は増加し、目標を達成しました。一口30回噛んで食べるよう意識している人の割合は減少しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考) 全国値	出典
むし歯のない3歳児の割合の増加	R1 90.4%	R4 94.0%	R6 95%	B	R4 91.4%	【県】母子保健事業報告 【国】地域保健・健康増進事業報告
むし歯のない12歳児の割合の増加	R1 84.4%	R5 88.3%	R6 90%	B	—	歯科疾患実態調査(新潟県)
8020達成者の割合の増加	R1 36.6%	R5 48.4%	R6 40%	A	R4 51.6%	【県】県民健康・栄養実態調査 【国】歯科疾患実態調査(厚生労働省)
定期的に歯石除去や歯面清掃を受けている人の割合の増加(15歳以上)	R1 25.8%	R5 29.7%	R6 30%	A	—	県民健康・栄養実態調査
一口30回噛んで食べるよう意識している人の割合の増加(15歳以上)	R1 19.6%	R5 13.8%	R6 30%	E	—	

(2) 各場面や世代に対応した食育の推進

〇けんこうtime推進店登録店舗数の増加

けんこうtime推進店の登録数は増加し、目標を達成しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考) 全国値	出典
けんこうtime推進店登録店舗数	R2 127 店舗	R5 235 店舗	R6 増加 させる	A	—	健康づくり支援課調査

その他の指標は「(1)生涯にわたる健康づくり」のP5～6に記載の指標、「(3)新潟の食の理解と実践」の「活動した食育ボランティアの人数」の再掲です。

(3) 新潟の食の理解と実践

〇活動した食育ボランティアの人数の増加

活動した食育ボランティアの人数(延べ)はほぼ横ばいで推移し、目標は達成しませんでした。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考) 全国値	出典
活動した食育ボランティアの人数の増加(延べ)	R1 88人	R5 82人	R6 110人	E	—	食品・流通課調査

○学校給食における県産・国産農林水産物を使用する割合（金額ベース）の増加

学校給食における県産農林水産物および国産農林水産物を使用する割合（金額ベース）は減少しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考) 全国値	出典
学校給食における県産農林水産物を使用する割合（金額ベース）	R1 66.1% 【全国9位】	R5 60.7% 【全国21位】	R6 全国7位以内を目指す	E	R5 55.4%	学校給食における地場産物・国産食材の使用状況調査
学校給食における国産農林水産物を使用する割合（金額ベース）	R1 91.6% 【全国7位】	R5 87.2% 【全国33位】	R6 全国5位以内を目指す	E	R5 88.6%	

○食品ロス削減のために何らかの行動をしている県民の割合の増加

食品ロス削減のために何らかの行動をしている県民の割合は約9割で、目標を達成しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考) 全国値	出典
食品ロス削減のために何らかの行動をしている県民の割合	R3 90.8%	R3 90.8%	R6 80%	A	R5 76.7%	【県】資源循環推進課調査 【国】消費生活意識調査

○災害時に対応できる食料品を備蓄している県民の割合の増加

災害時に対応できる食料品を備蓄している県民の割合は増加し、目標を達成しました。

指標名	基準値	直近値	目標値	達成状況	(参考) 全国値	出典
災害時に対応できる食料品を備蓄している県民の割合	H30 34.7%	R4 41.5%	R6 36%	A	R1 53.8%	【県】県民健康・栄養実態調査 【国】国民健康・栄養調査

その他の指標は「食育に関心を持っている県民の割合」の再掲です。（P5参照）

2 計画の基本理念・柱と目標

（１）基本理念

食は命の源であり、健全な食生活なくして心身の健康や豊かな人間性を育むことはできません。また、自然の恵みや「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めることが、豊かな食生活につながります。

このような考えに基づき、これまでの基本理念を継承し、引き続き次のように定めることとしました。

新潟の食を通じて、健全な心身を培い、豊かな人間性を育む

キャッチフレーズ にいがたの食で育む、元気・長生き・豊かな心

新潟県食育推進計画では、基本理念に向かって、県民一人一人、こどもから成人、高齢者までが「食」について、自ら考え、行動できることを目指し、県民、関係者、行政が一体となって取組を進めます。

また、食育によるSDGs※達成への貢献の視点など、国の基本計画等も踏まえて取り組みます。

※SDGs（「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」：先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに169のターゲットから構成されます。

（２）計画の柱と目標

第3次計画の評価や食に関する現状を踏まえて、第4次計画では柱を以下のとおり設定します。

- 1 生涯にわたる健康づくりを支える食育の推進
- 2 持続可能な新潟の食を支える食育の推進
 - （１）新潟の食の理解と実践するための食育の推進
 - （２）食品ロス削減や災害時の食の備えに対応した食育の推進
- 3 新潟県の将来を担う若い世代への食育の推進

また、基本理念に近づくため、県民の意識や行動の目標を各柱に掲げ、目標の達成状況を評価するための評価指標を設定し、施策の展開・取組を進めます。

